
副病院長（管理担当） 就任にあたって

副病院長 長岡 正宏



このたび平成 23 年 11 月から駿河台病院副病院長（管理担当）を仰せつかりました。私は、昭和 53 年に本学を卒業後整形外科に入局し、昭和 61 年から駿河台病院に勤務しています。これまで整形外科医として多くの駿河台病院の皆様にお世話になりつつ現在に至っています。昨年整形外科部長を拝命してからは「コミュニケーション」と「多様性」をキーワードとし駿河台整形外科医局を運営してきました。患者さまとのコミュニケーションはもとより、職員間、医師間、上司と部下など院内で意思疎通を行わなければならない関係は沢山あります。意見の相違はお互いの勘違いから生じることが多く、よくよく聞いてみると「なるほどそうだったのか。確かにそのような考え方もある」と思うこともあるのではないのでしょうか。自分の考えを改める余裕を持つことができれば理想的でしょう。勘違いをさけるためには良好なコミュニケーションを築くことは必須です。同じような思考をする人が集まればコミュニケーションが楽になるとの考えがあるかもしれませんが、なかにはそのような人事を好むリーダーがいます。しかし、それでは新しいアイデアは生まれません。たとえば学会は、まさに多様性から新知見が出てくる最先端の場です。学会には多種多様な先生がいます。全く患者のことを考えてない発言をする先生もいます。しかし、逆にそのような討論を聞いているときに、新しいことが思い浮かぶことがあります。「この人はダメな人」から学ぶこともあるのではないのでしょうか。多様性があってこそ組織は改善し続けることができると確信しています。また、あるグループがその組織の中心的役割を担うことはしばしばあります。しかし、患者のニーズ、保険制度、文化の違いなどにより時代の流れとともに、変革はかならず起こります。恒に多様性を考慮しておかないと、まだ見えない将来に対応することができなくなるのではないのでしょうか。

現在の駿河台病院は数々の難題を抱えていると感じています。しかし、駿河台病院の職員はこの時期を乗り越えることができる潜在能力があると確信しています。その理由は駿河台病院に愛着を感じている人が多いと感じているからです。私はこれまで病院の管理職に就いたことがなく、どこまでできるか不安でいっぱいです。担当となる医療安全管理が中心となりますが、新病院に向けて毎日の努力継続を忘れないようにしたいと考えています。